

天然素材を用いた染色方法の普及・促進事業

平成23年度 採択事業

カワバタプリント

代表

川端

康夫さん



「川端商店」店長 川端 まゆみさん

体に害のない製品を

カワバタプリントは平成7年に創業したプリント会社です。当初はTシャツなどへの手捺染プリントを中心にっており、染色はあまり手がけていなかったのですが、2年後の平成9年には、五条新町のビル3階、元染色工場跡に工場を構えました。平成19年に事業再構築を行った末、従来の化学染料への疑問と、古来の天然染料への期待から、界面活性剤を使用しない天然素材を使った新しい染色加工技術の普及促進を続けています。

「体に触れるものづくりをしているので、体に害のないものをつくりたかったんです。」と、今回お話を伺った、カワバタプリント代表川端康夫さんの奥様の川端まゆみさん。職人として長く染色に携わっていたまゆみさんがおっしゃるには、大量生産や扱いが簡単な化学染料は、プリントも可能なため手軽に使われていますが、基本的には石油を原料としており、アレルギーの原因になる場合もあるとのこと。体に悪いものを使っているのであれば、それを体に良いものに少しずつ変えていこうと、まずは、日本染織文化協会会長で、三重大学名誉教授（工学博士）でもいらっしゃる、木村光雄先生に相談されたそうです。

先生をはじめ、織屋さん、卸屋さんなどと研究を進め、平成21年には、先生が発明された「新万葉染め」による染色技術を加工用に転用する共同開発に成功したそうです。新万葉染めは、商標登録（平成22年）及び特許出願（平成21年）されている、日本の伝統工芸として



天然素材を用いた染色方法で作られた製品。染色された上から柄が施せるのが特徴

環境対策

伝わる草木染めの色材とのこと。開発のポイントとなったのは、材料の微粉砕化だそうです。従来の草木染めでは、たくさんの材料を使用し、時間をかけて何回も染め重ねる必要がありましたが、微粉砕した材料を使用することにより、時間の短縮になり、プリント用のバインダー（糊状の色材）にも応用することができました。たった3工程、約10分で、色濃く草木染めを表現できるようになったとのこと。また、粉の量で濃淡の調節も可能となり、バインダーを使えばプリントも施せます。

直営店のオープン

「新万葉染めを、染色の新技术として普及していきたいところですが、なかなか浸透しないのが課題です」と、まゆみさん。カワバタプリントは、普及促進策として染色工房型ショップを提案してファンドに採択されます。そこで、新万葉染めストールブランド「mato」を立ち上げ、2012年には、清水寺へ向かう観光客が多い清水道沿いに直営店をオープン。手土産品としての可能性も試しています。また、インターナショナルファッションフェア（IFF）や、全国の百貨店への出店など、国内外へ向けた販促に力を入れつつ、子供やアレルギー体質の方、高齢者などへ商品提案をしています。「市場に多く流通し、製品の良さを実感してほしい」…まずは手にとっていただくことから、と、新万葉染めを体験するワークショップも開催しています。



2012年10月に清水にオープンした直営店「川端商店」

震災復興や6次産業化への支援

社会貢献への取り組みも積極的に行われています。京都芸術デザイン専門学校生のインターンシップに協力し、デザインの力で高齢者を元気にする「スマイルプロジェクト」への商品提供もその1つ。新万葉染めの普及を通して少しでも社会貢献できる企業を目指しているそ

うです。

2011年からは被災地支援も。東日本大震災で甚大な被害を受けた釜石市では、塩害に侵された田畑の再生を目指して、被災地にマリーゴールドを栽培しています。そのマリーゴールドで粉砕原料を作り被災地へ届けることで、釜石市では商品開発や染め物教室、キャンドル作りイベントなどを行い、黄色に染めるまちづくり事業を展開しているそうです。

また、第1次産業（農林漁業など）と第2次産業（加工業など）と第3次産業（小売業など）を掛け合わせることで、新たな地域産業を創出する「第6次産業」にも取り組んでいます。生産者と加工、販売が強く結び付き連携していくことは、日本の第1次産業を守るためにも必要な取り組みだと言い、その歯車の1つとして、原料となる植物の栽培などを行っているそうです。「主人と一緒に栽培地に行き、栽培体験から始めます」と、まゆみさん。行動力がありで常に動き回っているというご主人康夫さんと共に、体に良い染色を笑顔で発信し続けています。



乾燥して染料に用いるマリーゴールドと、マリーゴールドで染められたストール

事業概要

カワバタプリント

<http://www.kawabataprint.com/>

代表：川端 康夫

業種：織物手加工染色整理業

創業：平成7（1995）年

住所：〒600-8107 京都市下京区五条通室町西入東鋸屋町165番地 林英ビル3階

TEL：075-343-4817 FAX：075-343-4818